

IT経営カンファレンス・総会の報告

2020/3/4 にウィンクあいちにて開催を予定しておりました「IT経営カンファレンス 2020 in 名古屋」及び2020/5/23 の「2020 年度総会・講演会」につきまして、新型コロナウイルスの影響によりオンライン開催とさせて頂きました。

「IT経営カンファレンス」におきましては、開催直前でオンライン開催に変更となったため、十分な準備時間もなく、発表者の方にご用意頂いたパワーポイントの資料をビデオにただけで、音声もなく非常に分かりにくい内容となってしまったことをお詫び致します。また「中部IT経営力大賞2020」の受賞企業の皆様にも表彰式が行えず申し訳ありませんでした。

「2020 年度総会・講演会」では早い段階からオンライン開催に向けて準備を行ったこともあり、Zoom を使用したリアルタイムでのオンライン開催を行うことができました。オンライン開催ということで、講演者の方も名古屋まで足を運んで頂く必要もないことから、東京からの講演も行っていました。聴講して頂いた皆さんも会場での開催に比べてリラックスして聴講して頂けたのではないかと思います。とは言え運用側にも慣れない面もあり、ご参加頂いた皆様には色々

とご不便をお掛けしたと思います。まだコロナウイルスの影響はいつ終わるか予断を許さない状況であり、今後のITC 中部の行事もオンライン開催で行うケースも増えてくるものと思いますので、IT の専門家集団である「ITC 中部」としては、他の見本となるような体制を構築していく必要があるものと考えています。またコロナウイルスが終息した後も今後は新しい講演会の在り方を模索し、リアルとオンラインのマルチ開催等も実施していくべきかと思っています。個人的には講演会終了後の懇親会も楽しみの1つなのでコロナウイルスが一刻も早く終息してまた皆さんと懇親会ができるのを楽しみにしております。

今回のコロナウイルスの影響で、テレワークを導入する企業も増え、色々な業務がテレワークでも実施可能な体制に世の中は変わっていくものと思います。今後ますます IT 活用の需要が増え、IT コーディネータの活躍の場も増えるものと思います。

ITC 中部の会員の中でもコロナウイルスの影響で売上が減る等苦労されている方もおられるかと思いますが、皆さんの力でこの難局を乗り切って平穏な日々が戻ってくることを願っております。今後とも ITC 中部をよろしくお願い致します。(ITC 中部 理事長 秋山 剛)

事務局だより

処暑の候、皆様におかれましてはコロナ禍にあってもますます清栄のことと、お慶び申し上げます。ITC 中部では、新型コロナウイルス対策へ協力したいとの思いから、会員の皆様にご協力いただきました寄付金(12 万 6000 円)をもとに、愛知県に対して医療用消耗品を寄付するための準備をしてきました。

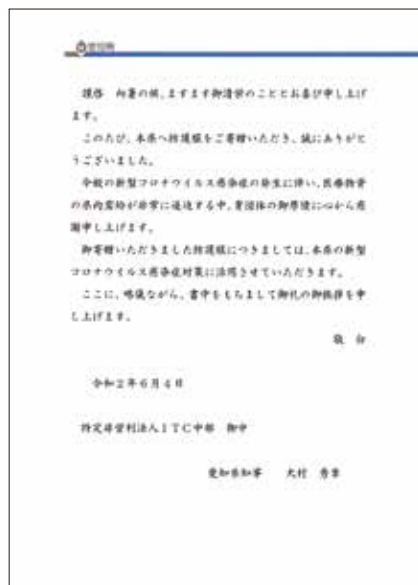
6 月 4 日に、秋山理事長・森副理事長が、愛知県庁へ伺い、医療用ガウンの寄付を行いました。ご対応いただいたのは、愛知県 経済産業局長 伊藤 浩行 様(写真左の方)、愛知県 経済産業局 産業部 産業振興課長 松川 典靖 様、愛知県 経



秋山理事長・森副理事長と
愛知県 経済産業局長 伊藤 浩行 様
愛知県 経済産業局 産業部 産業振興課長 松川 典靖 様

済産業局 産業部 産業振興課担当課長(地域産業) 夏目 泰樹 様の 3 名となります。また、大村知事からも御礼のご挨拶をいただきました。ITC 中部として、このような活動ができたことを誇りと思ひますし、会員の皆様に対して、事務局として御礼申し上げます。(ITC 中部 事務局 山本 憲司)

▶大村知事からいただいた感謝状



NPO法人・ITC中部広報誌第35号 令和2年9月30日 発行

発行：NPO法人・ITC中部コミュニケーション委員会

〒460-0022 名古屋市中区金山5丁目11-6 NSCビル4E

発行責任者：NPO法人・ITC中部 理事長 秋山 剛 編集責任者：NPO法人・ITC中部 コミュニケーション委員長 吉田 信人

Webサイト (https://itc-chubu.sakura.ne.jp/)

NPO法人・ITC中部 広報誌

Vol.35



非特定営利活動法人

ITC中部

https://itc-chubu.sakura.ne.jp/

特集

＜中部IT経営力大賞受賞企業紹介＞



目次

巻頭言

1

特集

「中部IT経営力大賞受賞企業紹介」

【大賞】

株式会社テルミック様

2

【優秀賞】

東和組立株式会社様

3

IT経営カンファレンス
・総会の報告

4

事務局だより

4

巻頭言

ビジネススキルアップ委員会(通称: BizUp委員会)の角谷です。新型コロナウイルスが猛威を振るい、第2波も懸念されている中、テレワーク導入を含め働き方が変わってきています。テレワークを導入することで、出社しないとできないと思われていたことが、在宅勤務で可能になりました。ZoomやTeams等でWeb会議を行い、事務作業はクラウドシステムを利用すれば、ホワイトカラーは基本的に出社が必要なくなります。ITをうまく利用することにより、働き方を変えることができることを多くの企業が体験してきました。一方、「ハンコの押印」や「取引先からのFAX・書類の整理」など出社が必要な業務が浮き彫りになってきました。

これらの業務は、古い慣習に引きずられていることが多く、IT化によってカイゼン可能なことが多くあります。古い慣習に引きずられた無駄を省き、労働生産性を高めることは、企業にとって大きな課題です。新型コロナ禍をきっかけにITの利活用が進んでいくことを期待しています。一方、データとデジタル技術を活用して旧来のビジネスモデルやプロセス、組織を変革することが推進されています。これが、いわゆるDX(デジタル・トランスフォーメーション)です。昨今、DXと声高に叫ばれていますが、実際、何をすればよいの分からないと意見をよく聞きます。

私は、デジタル・トランスフォーメーションの前に、もうひとつのDX(デジタル・エクスペリエンス(体験))が重要だと考えています。デジタルによって実現できることを体験することによって、デジタル・トランスフォーメーションのイメージを持つことができます。AI、IoT、RPA、ビッグデータ、5G、VR等々多くの技術が開発されています。これらの技術は、実体験することをお勧めします。体験することによって多くのアイデアが生まれ、そのアイデアを議論することによって、さらに多くの質の高いアイデアが生まれ、そのアイデアを組織内外で共有することが、デ

ジタル・トランスフォーメーションの推進につながっていくと信じています。ITCは、DXの担い手にならなければなりません。BizUp委員会では、ITC中部会員の皆様がDXの担い手となるお手伝いをしたいと考えています。

■BizUp委員会の活動内容

BizUp委員会は、会員皆様のスキルアップ支援を行っています。ITC更新に必要な年間10ポイントを取得できるようにイベントを開催しています。昨年度は、6回11.25ポイント分のイベントを開催し、延べ152名の皆様にご参加頂きました。

本年度は、新型コロナウイルスの影響もありオフラインでのイベントは制限されるため、例年通りの活動は難しいかもしれません。しかし、知恵を絞って皆様に満足頂けるイベントを開催したいと考えています。オンラインでの企業訪問、セミナー、ワークショップも検討中です。

■BizUpセミナー講師募集

BizUpセミナーでは、発表頂ける講師方を募集しております。1月と2月の計4コマ分です。1コマ2時間弱で、ITC活動に参考となる内容なら何でも構いません。

■BizUp委員会メンバー募集

BizUp委員会では一緒に活動して下さる委員会メンバーを募集しています。ご興味のある方は、ITC中部のホームページ、もしくは、知り合いの委員会メンバーなどお気軽にご連絡下さい。

(ITC中部 角谷 篤)

実施日	内容
5月25日	ITC中部 総会・講演会
9月13日	企業訪問 イマコーポレーション様
11月30日	企業訪問 モンキーパーク様
	BizUpセミナー 『特許よもや話』
1月18日	BizUp委員会副委員長 池原敏郎 様 『Office365で現場改善』 ITC中部 理事長 秋山剛 様
	BizUpセミナー 『中小企業経営者が考慮すべき従業員のモチベーション向上策』 ITC中部 最高顧問 磯部秀敏 様
2月15日	『テール組織とManagement 3.0』 BizUp委員会 委員長 角谷篤
Web	IT経営カンファレンス2020 in NAGOYA

▲BizUp委員会の主な活動内容

特集「中部IT経営力大賞 受賞企業紹介」

【大賞】株式会社 テルミック様

会社は、愛知県刈谷市に本社があり、愛知県内に営業所 2 か所、工場及び検査センター 1 か所ある会社で、治具、工具、加工部品のあらゆるニーズに対応する金属加工会社です。

田中社長様は、52 才と働き盛りの大変元気で積極的な経営を推進されています。過去には、携帯電話事業や飲食事業も経験されたユニークな経歴の持ち主です。会社の業績は、リーマンショック後から、田中社長の経営戦略として、様々な改革により、売上は、2015 年の 5 億 5 千万円から、2019 年には 30 億 3 千万円へと急伸しています。

会社の特徴として、一般的に金属加工業のイメージとは大きく異なった経営と職場環境です。

その 1 は、内勤営業です。新型コロナ対策を先取りしたような営業で、営業担当者はお客様訪問を行わず、社内にて問い合わせや見積もりなどに即時対応します。

その 2 は、女性の活用です。営業は女性中心で、女性の営業所長もいます。社員 160 名の内、女性は 102 名です。

その 3 は、事務所が大変きれいで明るく、且、ペーパーレス化が進んでいます。机の上には、PC の 2 画面と電話があり、紙がありません。

2020 年の中部 IT 経営力大賞において、めでたく大賞を受賞されました。新型コロナ対策のため、田中社長様による受賞企業の事例紹介が行われなかったことは非常に残念です。

受賞の対象になったシステムの紹介

生産管理システム「Easy Pro」が稼働しています。見積業務から受注、仕入、作業指示、検査、出荷、売掛と他社と大差ありません。

・特徴その 1

システムパッケージを購入したのではなく、田中社長様が、経営戦略として実現したいことを、自らシステムエンジニアに依頼して、経営戦略ツールとして実現してきたことにあります。このシステムは、毎年毎年長きに渡って、改修・変更・追加を繰り返して構築されてきました。まさに、「アジャイル開発」を行ってこれたと言えます。

・特徴その 2

会社の特徴として、女性による社内営業があります。このことを実現している仕組みが見積機能です。また、同時にペーパーレス化を実現しています。

お客様から依頼のあった治具などの図面をもとに「最短 45 分最長 24 時間」で見積書を返信できる仕組みです。1 つは、過去図面の蓄積と検索を可能にしているデータベースシステムです。過去に似たような治具の受注をしている可能性が大変高いため、類似の過去見積を参考にしてみ積りが可能です。

このシステムと連動して、IT ツールのメールやテレビ会議を利用して、無駄な移動時間や打ち合わせ時間を無くすことで、お客様への素早い見積回答を実現しています。

・特徴その 3

この生産管理システムは、各工程進捗をバーコードで管理しています。受注案件が今日の工程にあるか即時確認が可能です。他の会社

と変わらないように見えますが、大きな違いはその進捗を全員にいつでも見えるようにしていることです。大きなモニター画面が何台も事務所内のあちこちに設置されています。通常、社員が進捗状況を画面操作して確認する形ですが、この会社は社員が進捗を見に行くのではなく、進捗の状況を常に見せています。

いつでもどこでも受注状況や進捗状況が見えることは、本社だけでなく、県内の営業所などでもリアルタイムで確認することができます。また、テレビ会議システムなどでも常に各営業所と繋がっており、一堂に会していなくても、いつでも、どこでも同様の仕事の実現できます。新型コロナ対応の時代に、先駆けた対策とも言えます。

今後の取り組み

2020 年 3 月に常滑に新工場の稼働を実現されています。生産管理システムと連動したスマート工場を実現して、さらなる売上拡大に対応した社内システムの構築を図られています。

今後の方針としては以下です。

1. 売上拡大
2. 事務量増加へのシステム対応
3. 社員の増員

まとめ

とにかく、製造業のイメージをなくした会社です。田中社長は「製造業のエンターテイナー」と言われているように、明るく、楽しく、そして女性が働きたくなる会社を目指しておられます。もっとも印象に残ったのは、「カジノカウンター」というモニター画面です。生産管理システムと連動して、「受注」があった際に、カジノのような画面が現れ非常に楽しい仕組みです。

全営業担当者は、2 画面（大きい 27 インチ画面）を使い、片方に図面表示して、片方に見積画面で見積などを行います。大手企業や IT 会社では行われていますが、中小企業の製造業ではまだ珍しいのではないのでしょうか？また、一般の生産管理システムでは珍しく営業担当者の日報機能が備わっており、画面右下に今日の仕事の予定や明日の仕事の予定を入力して、上長が承認するワークフローがっています。最後に、益々会社が発展し、さらなる楽しい IT システムを期待しています。（ITC 中部 伊藤 実）



▲受注がわかるカジノカウンターの画面

【優秀賞】東和組立株式会社様

■IoT 導入の背景

当社は自動車用のショックアブソーバーの組立を年間約 270 万本生産している中で、創業 50 周年を目前にして史上初の赤字が発生した。当時は納期手番が 3 分の 1 になり、受注も減少する中でどのように事業改善、体質改善をするべきかと考え、まずは業務の見える化への取り組みから問題の洗い出しと改善に取り組んだ次第。

また当社は女性社員 30%超、外国人社員 20%超、障がい者 20%弱というダイバーシティ企業である中、障がい者の戦力化についても IoT 技術でサポートできないかと言うテーマにも挑戦した。

■IoT 取り組みの姿勢

最初からソフトハウス等に丸投げせず、出来る事から一つずつ、市販品・他目的品・社会や社内のインフラの活用をし、なるべく安いコストで立ち上げる事を基本姿勢とした。

■具体的な活動 1.（管理レベルの向上）

◆「呼ぶ」「知らせる」を無線化

応援を呼ぶ、モノを送る、異常や緊急事態を知らせる為に人が移動したり、内線や放送を使うところを「市販の防犯用品」を活用し、「無線アンドン化」することで場内を網羅した。

◆工場内の状況を「見える化」①

社内の「モノと情報の流れ」を図示化し流れの悪さなどを把握した上で、ネック工程に「市販の WEB カメラ」を既存の社内 LAN 回線につなぎ、監視ではなく見守る姿勢で展開。

モノを見るだけでなく、帳票や管理板など必要に応じ画像で情報を共有し、更にそれに意味づけをすることで簡易的な進捗管理も可能にし、その運用を「モノ情カメラ」と命名した。

◆設備稼働状態を「見える化」②

モノの次に設備の稼働状態が見える化する為に「モノタワー」を自社内で開発。あるラインでは日当り 3000 個を 20 台の設備で生産する為、延べ 60,000 点のデータが日当り入手できるが、人手では管理できない所を監視、管理、加工する事で設備やラインの稼働状態が見える化した。

◆モノの流れを「見える化」③

製品が工程内のどこを流れているのか？工程内で不良を起こし「端数」として滞留していないか？などを作業指示票に QR コードを付与し、各ポイントにて入力する事により製品の流れを管理する「ロケーションシステム」を開発運用した。

◆LAN により統合化して管理レベル向上

「モノ情カメラ」「モノタワー」「ロケーションシステム」はそれぞれ独立したシステムであるが、それを社内の LAN で結び統合する事で全体を「見える化」出来るようになった。

■具体的な活動 2.（障がい者雇用への活用）

◆音声のテキスト変換ソフトの活用

NICT 及び FEAT 社による「スピーチキャンパス」などの音声変換ソフトとウェアラブルディスプレイを活用し、ろうあ者とのコミュニケーションを取れるようにした。

◆作業マニュアルのクラウド利用

MKTSYSTEM 社の「シンプルマニュアル」を活用し、作業マニュアルを静止画だけでなく動画や手話なども取り混ぜてクラウドに保管。都度ダウンロードする事で技能習得を容



IT改善の3本柱
システム化資料より引用

易にした。

◆外観判定画像診断機の開発

知的障がい者が特に苦手とする「判断」を寸法や形状のみではなく色味も含め判断する装置を大手メーカーの約 1 / 3 のコストで内製化。これにより従来経験値の高い健常者のみに与えられていた外観判定工程に、知的障がい者も従事できるようになり職域を広げることが出来た。

◆作業指示方法の見える化

知的障がい者や聴覚障がい者は作業の切れ目などのタイミングをつかむのが困難だが、タイマーに連動させたアンドンやスマホのリマインダーなど光や振動を活用してフラグを立てた。

■経営改善と IT 技術

モノづくり企業の場合、IT 技術を導入したから業績が劇的に変わる訳ではなく地道な改善などが有って初めて生産性などが向上するわけだが、「モノタワー」で集める日々の数万点のビッグデータや「モノ情カメラ」で得られる問題点を「カイゼン」につなげ、またその成果を IT 技術で評価することで、経営環境を大きく改善・変化させることが出来た。

■IT 改善に取り組んだ成果

◆生産性

単位時間当たりの出来高が約 20%向上した。

◆納期遵守率

改善前は 60%台であった納期遵守率は 90%以上を達成

◆棚卸金額

改善前の 8 分の 1 まで削減

◆顧客評価

改善前ベンチマーク比 2.5 倍に向上

◆障がい者定着

職域の拡大と定着。現在法定雇用率の約 9 倍を達成
当社の取組に対し、NHK より取材を受け全国放送にて紹介

■IT 改善に対する所感

他人任せにせず、自身が「何を」「どういう形で」「どのタイミングで」見たいのか？を明確にすることで問題を顕在化し、IT 技術をエンジンにして社内で「カイゼン」を廻すことがモノづくり企業としては何より重要である事を実感した次第である。（東和組立株式会社 取締役社長 林 佳寿彦）